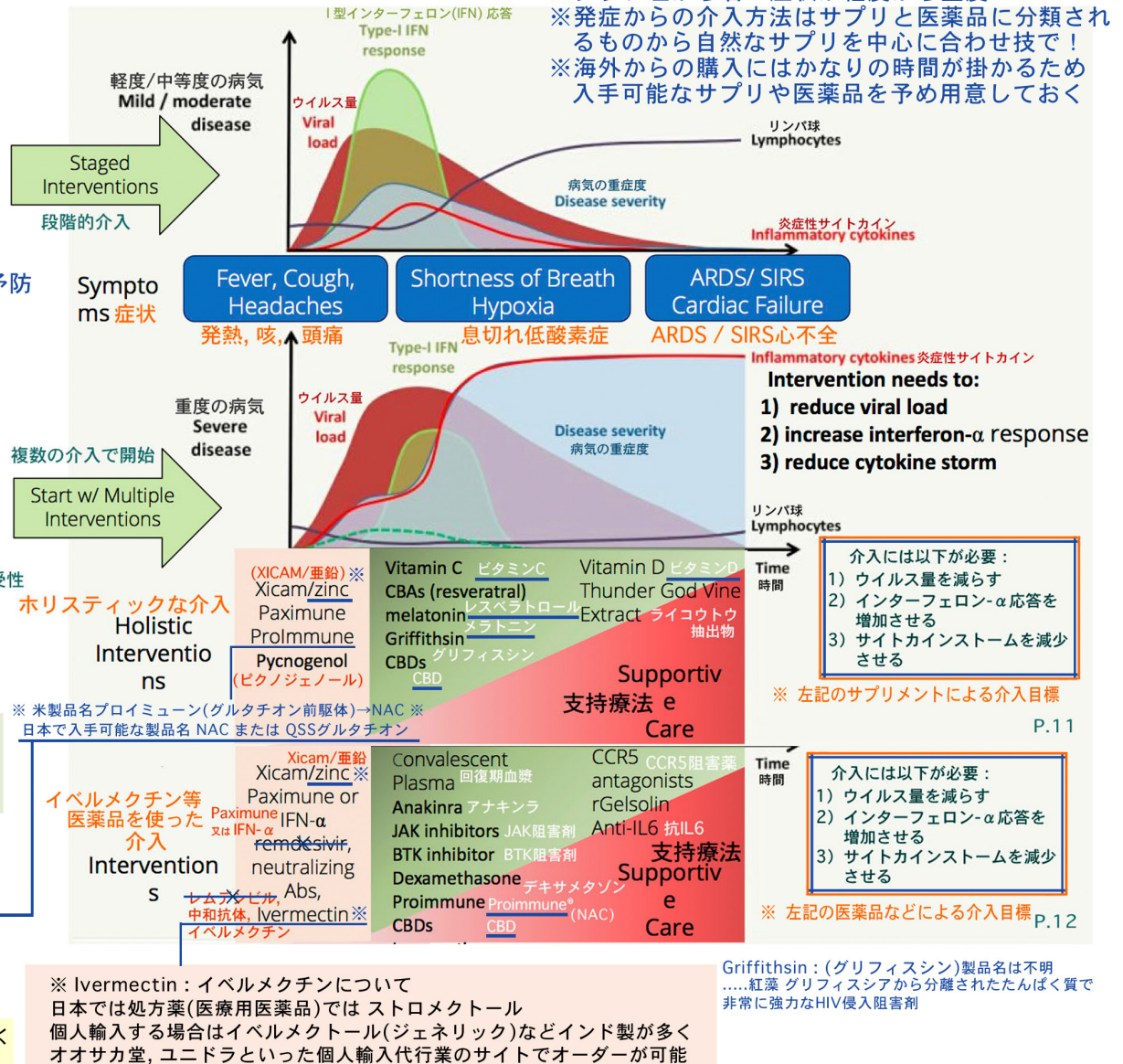
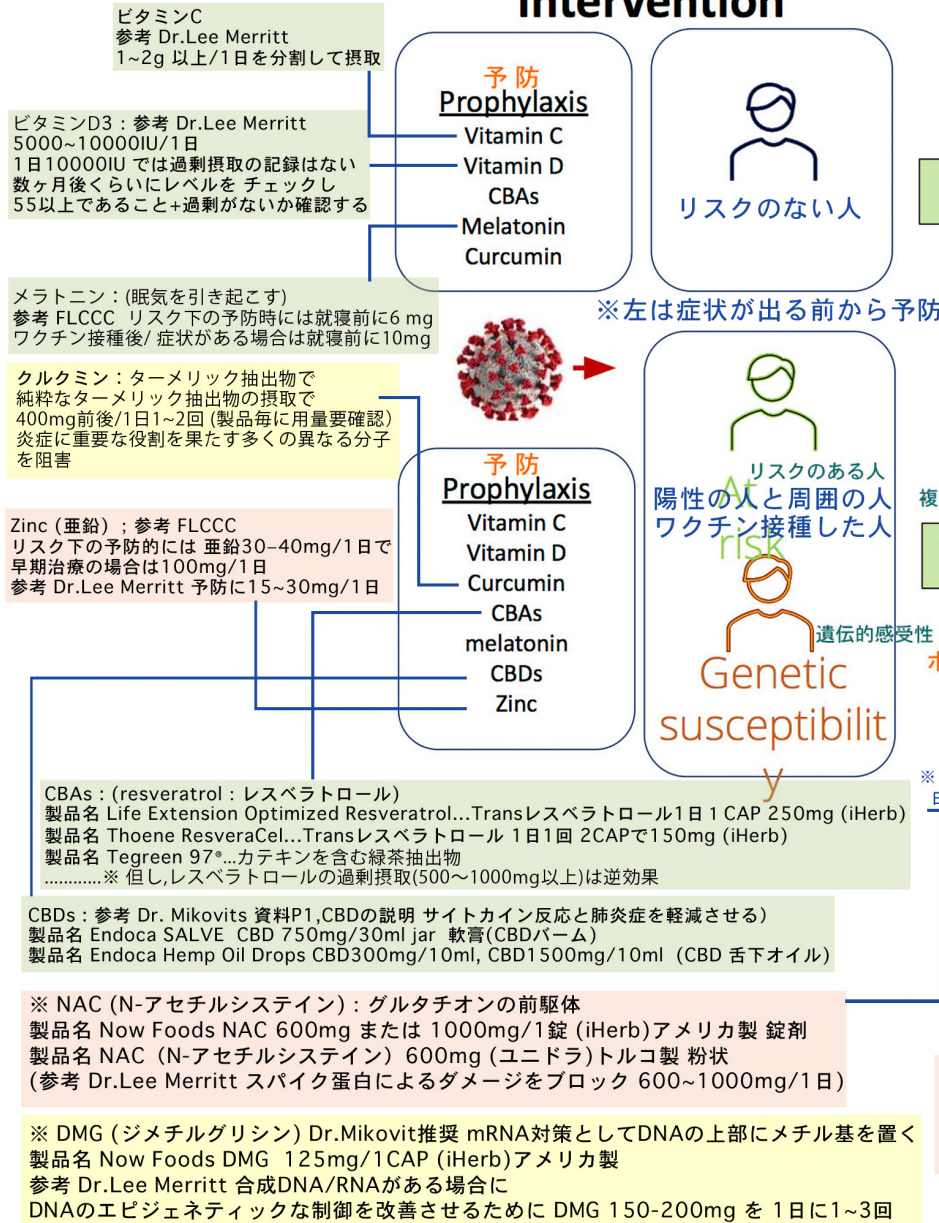


Kinetics and Intensity of Anti-viral Response with Holistic Intervention



※こちらは、2021年5月に米ユバシティで開催された博士たちによる第2回『自由で勇敢な会議』の講演に際し、Dr. Mikovitsが、作成されたスライド資料(P.11-P.12)を合体させて日本語訳や日本で入手出来るサプリなどを書き込んだ私的メモです。元資料は某アカデミー参加時に Dr. Mikovitsが、新型コロナと世界的に接種が進む注射による悪影響を逆転させる方法として、私たちにデータをご提供下さったものです。Dr. Mikovitsは、ノーベル賞受賞者のDr. Luc Montagnierと長年一緒に研究をされてきた生化学・分子生物学の博士であり、博士ご自身が研究室で致死性のXMRVを体内に入れてしまってから10年もそれを押さえ込んで健康を維持されており、頂いた資料には博士が科学者として積み重ねてきた研究成果と知識だけでなく実体験が活かされたものでもあり、私個人として最も信頼して基本に据えている療法です。まとめを作った私自身は医師でも薬剤師でもなく、この療法をお勧めするものではありません。もしこれを手にして実践されたい場合は、ドクターに相談するか、内容をご自身で調べた上で、自己の責任でお願いします。

マイコヴィッツ博士の[RNAウイルスによる疾患に対するホリスティックセラピー]まとめの補足

この時代に注意が必要なRNAウイルスの代表的なものに 新型コロナ(SARS-CoV-2), インフルエンザ, SARS, MERS, ヒト免疫不全ウイルス(HIV)がありますが、博士が使用している全ての自然なサプリメントそれぞれに重要な作用機序があり、その組合せによって免疫力を上げながら、RNAウイルスから身を守るために最善のプロトコルであることが、自分も様々な方向から調べてみて、理解出来ました。またこのプロトコルは、自然のウイルスだけでなく人工的に作られたmRNAワクチンによる様々な問題にも対応しています。博士の資料に後からメモとして書き込んだNAC, DMGについては今年(2021年)9月にリリースされた動画の中で博士が対応策として強調されていたものです。特にDMGについては細胞内に取り込まれたmRNAのメッセージをこれ以上作らせないためにDNAの上部にメチル基を置くということで、大変重要な作用を持っていると思い欄外に付け加えました。

またRNAウイルスの予防と介入(罹患後の対応)の両方に使用されているサプリの中で特に亜鉛について注意点があります。基本的にウイルスのRNAの複製と増殖が開始されるのは ヒトの細胞内であることから亜鉛に RNA複製の阻止を期待している場合、亜鉛を「細胞内に送り込む」必要があります。細胞膜の外にある通常の亜鉛では細胞内でのウイルスを阻害することが出来ないためです。そこで「亜鉛」が細胞内に入るための「亜鉛イオノフォア」が必要になってきます。亜鉛を大量に摂っても単体では細胞内には入って行かないからです。

そのために (Dr. Mikovitsのプロトコルの中には別々に記載されていますが) 【Zinc(亜鉛)】と併せて摂らなければならないサプリとして【CBAs】というものがあり、まとめの方にCBAs :

製品名 Life Extension Optimized Resveratrol...Transレスベラトロール1日1 CAP 250mg (iHerb)

製品名 Thoene ResveraCel...Transレスベラトロール 1日1回 2CAPで150mg (iHerb)

製品名 Tegreen 97®...カテキンを含む緑茶抽出物 というメモを加えていますが、これらの製品には主成分のレスベラトロールの他に亜鉛が細胞内に入るために必要な「亜鉛イオノフォア」作用をもつ成分として、植物ポリフェノールであるケルセチン またはエピガロカテキンガレート(EGCG)が含有されています。

製品名ごとに「亜鉛イオノフォア」作用をもつ成分は、下の通り、

製品名 Life Extension Optimized Resveratrolの1日量1カプセル中にケルセチンフィトソーム 150mg

製品名 Thoene ResveraCelの1日量2カプセル中にケルセチン(ケルセチン二水和物) 250mg

製品名 Tegreen 97®には 162mgのカテキンのうちエピガロカテキンガレート(EGCG) 95mg

※ つまり亜鉛を細胞内に送り込みRNAウイルスの複製と増殖を阻止するために必要な「亜鉛イオノフォア」としてのケルセチン または EGCGを含有する上記のCBAs製品か、或いは別のケルセチン単体の製品でも良いのでケルセチンなどの「亜鉛イオノフォア」を 亜鉛と一緒に摂取することが重要ということです。

イベルメクチンを使用する際の参考にFLCCCのプロトコルを上げていますが、その中でも亜鉛と一緒にケルセチン250mg~500mg/1日が使われています、緑茶を積極的に飲んだ場合にどの程度のEGCGが摂れるか調べて飲食を工夫されても良いかと思います。ちなみに抽出温度を90度にするとEGCGが最も多く抽出できるという話を読んだことがあります:) 以上、共に知恵を出し合ってサヴァイヴしましょう！